

亭の水の歴史

亭の水は昭和45年頃、白山を中心とした文化財調査の際、高尾の薬師神社のご神体は、平安末期か鎌倉初期のものとして注目され、県文化財の指定を受けました。歴史的に見ると、古墳時代の石棺の一部、奈良時代神亀元年(724年)薬師神社の創立、ご神体(少名彦神、薬師如来)は、行基ぎょうきの作と伝わっている。また、谷野一柏が高尾在住のとき、眼科に専念したが、常に配剤に用いた霊水がこの亭の水である。老松の下より湧き出る泉は、その水清く、夏はかえって水量を増し、約一間の絶壁より直下し、約6坪の泉水となっている。古来より眼病に妙なりと伝えられ、遠近より薬師神社に参詣し、水を求める人が多い。



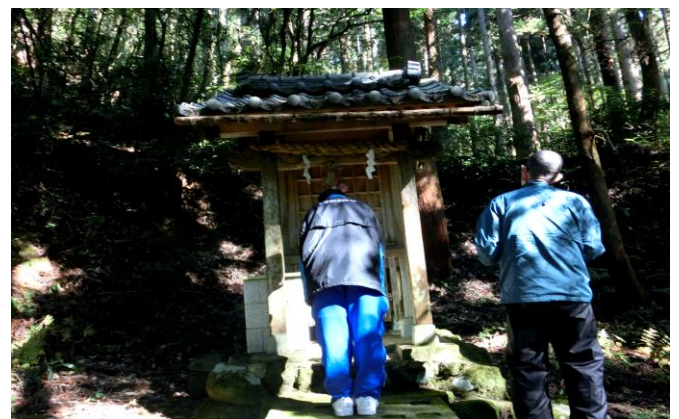
薬師神社

薬師神社に祀られているのは少名彦命で、神社建立は神亀元年(724年)と言われている。この神社には、薬師如来像があり、それは高さ1m9cmの桂材で、細かく切付けた螺髪らっぽうや目や鼻立ち等は、平安末期か、鎌倉初期の特色を示す名作である。朝倉家繁栄の頃は七堂伽藍があり、朝倉孝景はこの高尾山に薬師堂を建立し、そこに真言宗の僧で明国から帰朝した谷野一柏がこもって医業にはげみ、孝景に仕えたと伝えられている。



谷野一柏

谷野一柏は、奈良の真言沙門阿闍梨あじかりで、明に渡って医学、易学を学び、京都で盛名を馳せていたが、朝倉孝景の招きに応じて、戦乱の京都を逃れ、天文元年(1532)一乗谷に移り、還俗して谷野雲庵と改め一柏と号した。朝倉孝景は、一柏のために高尾に高尾寺を営み、薬師堂を建てて、行基ぎょうき作の薬師如来像を安置し、天文5年(1536)一柏が校正・刊行した「八十一難経俗解」を置き、救民のために役立たせたという。



篠尾麿寺礎石と横山古墳

篠尾麿寺礎石は奈良時代、この地にあった寺院の境内にあった塔の心柱の礎石。礎石に掘られた穴の大きさから、奈良法隆寺の五重塔と同規模の塔が建っていたものと推定されます。

横山古墳は酒生地区にある 330 基余りの古墳の一つです。酒生地区は、北陸地方では最大の古墳群です。成願寺山支群、八郎山支群、天神山支群、高尾支群、篠尾支群、行塚支群、横山支群の 7 支群に大きく分けられます。横山支群には、54 基の円墳があり、勾玉や管玉などの石製品が数多く出土しています。



いきいきバスについて

いきいきバスは、平成 23 年 4 月に誕生しました。最初はとても利用者が少なく困っていましたが、年々増加してきています。ですが、まだ利用者がすくなくです。このバスは高尾口を出発して、篠尾・成願寺・荒木新保・荒木・曾万布・済生会・東部プラザへ行くルートと、高尾口を出発して篠尾・成願寺・荒木新保・稲津・梅野・済生会・東部プラザ・A コープみゆき店までいくルートがあります。また、12 月から 3 月までの限定期間で冬期間は足羽一中区域をまわります。足羽一中生の通学に便利なルートです。遠慮せずに使って下さい。



職場体験の感想

清水 康世 (稲津町)

今回は、この酒生公民館に職場体験としてきました。事前打ち合わせのとき当日の仕事内容を聞いていた。新聞作りをされると言われ 2 日で間にあうかどうか心配だった。当日、資料を取りに薬師神社に行った。資料はたくさんとって新聞作りも松村さんと協力して完成させることができよかったです。

松村 陸翔 (稲津町)

今回、この酒生公民館で職場体験をして、公民館は何をするところか知らず、どきどきしながら来ました。来てみたらパソコンを使って、新聞作りをすると聞いて、ビックリしました。新聞の資料をとり薬師神社に行きました。亭の水のことも調べて、たくさん資料は集まったけれど新聞作りに時間がかかってしまいました。でも、いろいろと経験になったので良かったです。

【後記】足羽一中二年生の総合的な学習では、将来の生き方や働くことを学び、実際に職場体験を行っておられます。酒生公民館での職場体験は初の取り組みで、いきいきバスに乗って地域の歴史調べ、自分達で紙面を作成し、情報を発信する作業を体験してもらいました。酒生の歴史を再確認出来る力作に仕上がりました。取材に快くご協力いただいた高尾町 清水啓二さんをはじめ、道中温かいお声をかけてくださった高尾町の皆さま、いきいきバスの運転手さん、公民館をご利用の皆さま、本当にありがとうございました。